

# アメリカ女性の安楽死

## T・V・新聞で異なる用語

脳腫瘍のため余命半年と「亡」といわずれ  
 診断された米国人女性(29)も尊厳死と書  
 歳)が、11月1日に医師かした。

ら致死薬をもらい死亡し 朝日新聞だ  
 た。女性は病状や死亡日を けが「米女性  
 ユーチューブで発信し全米 予告通り安楽  
 で大きく報道された。 死」と、4日

日本でもマスコミが一斉 前に報じた  
 に伝えたが、事実認定が真 「米の女性 尊厳死宣言の  
 っ二つに割れた。3日の19 動画」から転向した。  
 時のNHKニュースでは安 テレビと新聞でこれだけ  
 楽死とし、深夜のTBSや 判断が違うのは珍しい。ど  
 フジテレビ、そして翌朝の ちらが正しいか。安楽死と  
 テレビ朝日なども同様だっ したテレビ局である。

だが、翌4日の朝刊を見 尊厳死とは、延命治療を  
 ると毎日新聞が「尊厳死宣 受けずに自然の成り行きに  
 言の女性死亡」、読売新聞 任せて死ぬこと。本人が食  
 は「尊厳死宣言 葉飲み実 べたり飲んだりできる程度  
 行」、東京新聞と産経新聞 に合わせ、経管栄養の胃瘻  
 も「尊厳死予告の米女性死 経でそれぞれ会田薫子さん

### CHECK チェック マスコミ報道

一介護・医療ニュースを読む一



ジャーナリスト  
 元日本経済新聞編集委員  
 浅川 澄一

1971年、慶応義塾大学経済学部卒業後、日本経済新聞社に入社。流通企業、サービス産業、ファッションビジネスなどを担当。1987年11月に「日経トレンド」を創刊、初代編集長。1998年から編集委員。主な著書に「あなたが始めるケア付き住宅—新制度を活用したニュー・介護ビジネス(雲母書房)」、「これこそ欲しい介護サービス」(日本経済新聞社)などがある。

や人工呼吸器など延命治療をしない。いつ亡くなるかは分からない。これに対し安楽死は自らの死亡時を医師の了解の下で決められる。家族や親しい友人たちに死を選択した理由を理解してもらい、彼らに見守られながら旅立つ。孤独に死を迎えることが多い自殺とはかなり異なる。4日の朝日と6日の日経でそれぞれ会田薫子さん

## 主要紙は軒並み「尊厳死」と誤表現

と清水哲郎さんが「安楽死というより医師による自殺幫助」。「尊厳死を認めたオレゴン州」。医師による自殺幫助」と疑問が残るコメントを寄せた。

ただ、6日の東京新聞を讀むと、新聞各社が尊厳死に引きずられた理由の一端が窺える。死亡した女性はカリフォルニア州からオレゴン州に転居してまで意思を貫いた。オレゴン州には1997年に成立した安楽死を認める「Death with Dignity Act」があるからだ。Dignityを直訳すると尊厳になる。女性も「尊厳死を選んだ」(翻訳者のミスかも)と話していた。

4日の朝日新聞ではこうした区別をきちんと書き込んだ。実は、同日の読売新聞も、日本尊厳死協会副理事長で多くの在宅看取りを経験している長尾和宏医師の談話を載せ、安楽死と尊厳死の違いを明記している。それなのに尊厳死と断き、違和感が残ったままとしており、なんとも不可解なる。

4日の朝日新聞ではこうした区別をきちんと書き込んだ。実は、同日の読売新聞も、日本尊厳死協会副理事長で多くの在宅看取りを経験している長尾和宏医師の談話を載せ、安楽死と尊厳死の違いを明記している。それなのに尊厳死と断き、違和感が残ったままとしており、なんとも不可解なる。